

第37回 桃太郎伝説はほんもの！

IT生

岡山といえば、いうまでもなく桃太郎伝説の本場。

その岡山は、7月の西日本豪雨で甚大な被害を受けた。が、桃太郎伝説が現実のものとなったのだ。被災地のひとつ、総社市は市長の陣頭指揮で、あろうことか、市役所のフロアを開放して、ペット専用の避難所を設けた。目的は、ペットの保護もなくてはならないが、避難者の誘因という。市長いわく、いまどき、日本では2割ほどの人がペットと生活をしている。だから、それらの人を避難にかりたてるためには、わんこや、にゃんこの保護が必要だというのだ。

しごくあたり前のことに聞こえるが、現実はそうではなかった、これまでは。避難所で邪険にされたり、ご主人様から引き離されたりしてきた。だから、災害が起きると、ペットをかつている人は、被災した自宅に引きこもる。もしくは、車中泊をする。となると、余震がある場合は、危険このうえないし、車中泊を長く続けると健康を害する。ならば、役所が主導して、ペットを保護してしまえば、避難者もついてくると、総社市では考えた。

そして、わんこや、にゃんこがご主人様を安全地帯（避難所）に連れてきた。これを桃太郎伝説といわずして、なんというのだろうか。ところが、これを報じた一部のマスコミは、衛生管理がどうか書いていた。緊急時は、まず命第一なのに、平常時の感覚で考える愚かさ。市長いわく、ペットを大切にすることは、衛生管理もできていますよ、と。

なにがとも、信じるものは救われる、である。

(平成30年8月)



総社市役所に設けられたペットの避難所。飼い主の避難誘因ともなった